

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673900173
法人名	コロンプス(株)
事業所名	グループホームのどか
訪問調査日	平成20年12月22日
評価確定日	平成21年3月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4673900173
法人名	コロンブス(株)
事業所名	グループホームのどか
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町求名13564番地 (電話) 0996 - 57 - 1513

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成20年 12月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.6
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.75

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 12月 4日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.27 歳	最低	67 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さつまクリニック・ますさき医院・四位歯科・滝川歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の発案で家庭的なあたたかさが伝わるようにユニット名を「なかむら家」「いとう家」と名づけている。建物の構造もU字型になっていて利用者・職員も動きやすいように工夫されている。フロアから山あいの景色が一望でき、四季の移り変わりを満喫できる環境にある。庭園では蛍の観賞もでき、クレソンも自生するなど自然をいかしたケアを実践している。職員に3ヵ月交代でチームリーダーを経験させ、職員一人ひとりの自信につながりレベルアップが図られている。敷地内に小規模多機能型居宅介護施設もあり、利用者がより安心して過ごせる地域に密着したホームとして期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	改善課題に対して職員全員で取り組み、「これまで暮らしてきた地域において」の文言をいれ、事業所独自の理念が出来ている。災害対策の課題については隣接する会社の協力や職員の家族などの協力を得ての訓練を検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	各ユニットでリーダーを中心に取り組みを話し合い、まとめを管理者・計画担当者が行っている。年1回振り返りができ、意義を感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	2ヵ月に1回実施し、近況報告、ヒヤリハット・事故報告、行事についての説明、また参加者からの意見をもらって検討・話し合いをしている。駐在所員に徘徊の見守り協力を得たり、また講師を招いて看取りの講話をうけ理解を深め、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	家族の来訪時や介護計画作成時に意見や要望をもらっている。意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	運営者は地域老人クラブに出向きグループホームの啓発を図っている。公民館で行われるサロンには積極的に参加している。集落の伝統行事の見学、地域の文化祭、農業祭の見学、校区・小学校の運動会に参加するなど、地区民との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員と話し合い、「これまで暮らしてきた地域において」の文言が入った事業所独自の理念が出来ている。玄関に掲示、広報誌にも記載し、ホーム外にも事業所がめざすサービスのあり方を示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申送り時に就業者心得、理念、禁止事項を毎日、曜日ごとに変えて唱和し共有、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館で開催されるサロン(体操教室、交通安全教室、七夕、踊りなど)に参加している。集落の伝統行事の見学、地域の文化祭、農業祭の見学、小学生との交流もできている。運営者は老人クラブにでむきグループホームの啓発を図り、地区の方々に見学してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットでリーダーを中心に取り組みを話し合い、まとめを管理者・計画担当者が行っている。年1回振り返りができ、意義を感じている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回実施し、近況報告、ヒヤリハット・事故報告、行事についての説明、また参加者からの意見をもらって検討・話し合いをしている。駐在所員に徘徊の見守り協力を得たり、また講師を招いて看取りの講話をうけ理解を深め、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との行き来する機会(高額医療費、事故報告、高額介護サービス費など)をもっている。インフルエンザの広報や保険証切り替え時も国保担当者に届けてもらうなどサービスをもっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1回ホーム便り「のどかファミリー」の発行。月1回は担当職員より利用者の近況報告、状態変化の際は電話報告している。面会時にも報告を含んだ会話をもっている。金銭管理は出納帳による確認を月1回行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画作成時に意見、要望を聴いている。家族からの意見、要望などはミーティングで話し合い、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは運営者、管理者、職員とも充分にわかっている。隣接する小規模多機能ホームとの異動も考えられるが双方の利用者がダメージを受けないように両方の職員はトータルでなじみの関係が作れるように合同でイベントをしたり、お互いに職員は行き来して、ダメージを最小限に抑えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも、参加し、全職員に報告し共有できている。内部研修も会議の中で研修を含めて実施している。レベルアップにつながる資格取得の声かけ、支援もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームから訪問や研修はあり交流できているが、自らの働きかけでより充実した交流の機会づくりが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や病院などに行き、本人、家族と面談している。相談から利用に至るまで話し合いを重ね、少しずつなじみの関係を作り、無理なく利用されるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の話を聞いて、学ぶこと(つるし柿、お手玉作り、田んぼの苗植えなど)が、多く、支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族の面会時に思いや意向の把握に努め、職員は情報の共有を図っている。日々の生活の中で表情や行動より感じ取れるよう、心がけている。全盲や聾啞者にも、ジェスチャーなど色々工夫しながら本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、サービス内容について話し合いをもっている。利用者、家族の要望を聞き、意見交換を行って利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに見直し評価を行い、介護計画に活かしている。状況の変化に応じて随時、介護の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、墓参り、友人との外出の支援など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。24時間健康管理と医療連携体制が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの個々のかかりつけ医の受診を支援している。往診も支援している。受診の結果は電話や面会時に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針を定めており、家族、医師、看護師を交えて話し合い、職員も納得、共有できている。運営推進会議でも看取りについて講師を招いて勉強会をもち、関係者の理解を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に注意するよう、ミーティングの際に職員の意識向上を図っている。個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペース(起床、就寝、外出、晩酌、おやつ、食事の嗜好)を大切に利用者のその日に合った過ごし方の支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意思や思いを大切に豆の皮むき、かぼちゃのつぶしやエプロンたたみなどできることをしてもらっている。利用者の希望や状況によって居室やベッドで支援することもある。同じテーブルで職員も一緒に楽しく食事できるよう、支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や回数などきまりはなく、利用者の希望や体調に留意し、気持ちいい入浴とってもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内でソーメン流しやぼたる狩り、花火大会、遠足、地域の行事参加を楽しんでいる。希望があれば理美容院の送迎や買い物支援もしている。利用者の趣味、特技を發揮できるよう、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	手押し車、車椅子で敷地内を一周したり、散歩、買い物、ゴミすてを兼ねたドライブ、地域のサロンなどに誘い、外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内の造りが死角が少ない見守りしやすい構造にできているので鍵はかけていない。外出する利用者もいるが駐在所、隣接会社、従業員の協力をもらい、見守りの連携ができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を隣接の小規模多機能ホームとの連携で実施している。今後は隣接する会社の協力や職員の家族などの協力を得て訓練を検討中である。水害を経験しているため非常時の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックは個人記録に記載されている。個々の状態に合わせてトロミ食、キザミ食、ミキサー食を提供している。栄養バランスについては同じ敷地内の他施設にいる栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアからは山間の景色が一望でき、明るく温かみのある共用空間になっている。すだれ、ブラインドを使って日ざしの調節をし、季節の花を飾り快適な環境を提供している。家庭的なソファもあり、季節の工作物をかざるなど居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせてベッド、畳のお部屋が準備されている。家族の写真、花、テレビ、電気カーペット、個人的に新聞をとったり、なじみの椅子、家具、寝具を持ち込んでいる。利用者の身体状況に合わせて和室、洋室を選択してもらい、その人らしく安心して過ごせるよう配慮している。		